

## 121213 積雪の上を歩く虫…

[ダイヤモンドトレール](#)へ至る林道、途中から積雪と路面凍結のため、車での走行をあきらめました。

車を降りて歩き始めたのですが、ときおり粉雪の舞う“真冬”の様相でした

雪を踏みしめながら歩く「キュッ キュッ」という音と、ときどき耳にする野鳥の声以外は音の無い、静かな世界が広がっていました。

“何か虫はいないかな”と周囲を見ながら歩いていたのですが、雪のちらつく極寒の中、動くものなど「皆無」と言えるような状況でした。

そして、2 cmほど雪の積もっている林道上で小休止していると…

何と、積雪の上を飛んでいる「虫」を見つけたのです！！

しかも、ときどき雪面に降りて、歩いたりしていますので驚きです！

見た感じ、か弱そうな大きな「蚊」といった印象を受けたのですが、餌も無いでしょうに、何でこんな季節に飛び歩いているのでしょうか？

何かの間違いでこの1匹だけが季節外れに羽化してしまったのでしょうか？

でも、じっくりと探してみると、すぐに数匹の同種の虫を見つけることができました。

“虫は変温動物なので、気温が下がると動けなくなる”と思っていたのですが…

図鑑で調べてみると、「ガガンボモドキ」という名前の虫であることが分かりました。

体長は1 cmくらいと小さく、何となく頼りなげな虫ですので、普段なら恐らく気にも止めないでしょうが、ほとんど“動き”の無い世界の、真っ白な雪の上では案外目立つ存在なのです。

さて、この「ガガンボモドキ」、何が楽しくて極寒の、餌もろくに無い真冬に活動しているのでしょうか…

非常に気になるところですが、理由はよくわかっていないそうです。

でもこの虫、他にほとんど活動している動物のいないこの季節だからこそ、このようにめんびり？と暮らすことができるのでしょうか、もし他の季節でしたらどうでしょうか？

トンボやバッタ、ハチやカマキリ、トカゲや野鳥、…  
もう天敵だらけの中で、生きた心地もしないような生活を余儀なくされるのでしょうか…

それならば、いっそ極寒に耐える暮らしの方が“まし”…？

■写真①：林床も雪化粧

■写真②：葉の上に積もる粉雪

■写真③：ガガンボモドキ

■写真④：遠景（大阪市内のビル群）













